

シニア世代を対象としたプログラム展開例(45～60分)

近頃の子どもは…～現代の子どもたちの特徴と接し方～

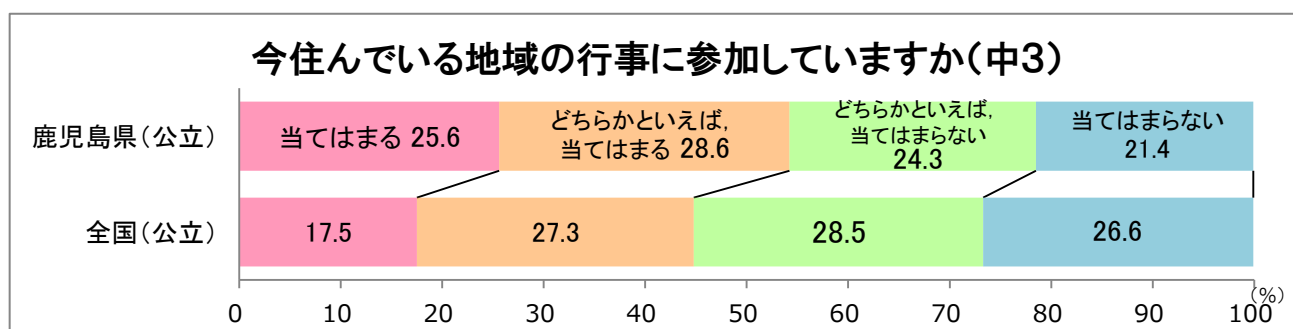
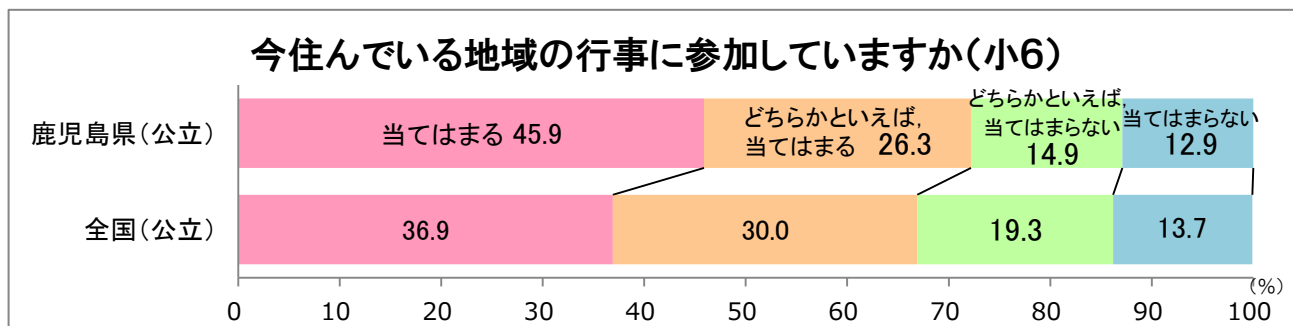
☆プログラムのねらい

- ・ ゲームやインターネット等のバーチャルな世界に浸ることが多いことや、スマートフォンなどのツールに依存した人間関係であることなどの現代の子どもたちの特徴について考える。
- ・ 子どもたちとの関わり方は、今も昔も変わらず「笑顔・あいさつ・声かけ」が大切であることを知る。

時間	進め方	準備物等
導入 10分	<p>アイスブレイク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者の自己紹介等から始めて場を和らげ、温かい雰囲気を作る。 ・ 4人程度のグループを作る。 <p><ルールとマナーを確認する></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 積極的に参加しましょう ● 一人一人の考えや思いを尊重しましょう。 ● 話合いの内容が個人的な批判や中傷にならないように気をつけましょう。 	アイスブレイク集の中から
展開 30～ 45分	<p>ワーク1</p> <p>① 現代の子どもたちの特徴について、自由に意見交換する。 ※ 現代の子どもたちに対して、否定的な印象をもっている参加者も少なくないと思われる。『データで見る現代の子どもたち』も参考として活用する。「役に立つ人間になりたい」「今住んでいる町や村が好き」については、最初からグラフを見せるのではなく、どれくらいの子どもがそう思っているか予想させてからシートを配布するなどしてもよい。また、補助資料を参考に、本県の子どもたちが地域の行事によく参加していることを伝えてもよい。</p> <p>② ①で出た特徴の背景となっていることを話し合う。 ③ ①や②で出されたことを見て、感じたことを語り合う。 ※ 出された意見を分類しながら黒板等にまとめ、「子どもの本質は今も昔と変わらないこと、変わったのは子どもを取り巻く人的・物的環境である。」ことに気付かせたい。</p> <p>ワーク2</p> <p>① 子どもの頃を振り返り、地域の人の自分に対する声かけや関わりで、心に残っていることを出し合う。 ② その中で、「うれしかったこと」や「今となればありがたかったこと」、「いやだったこと」に分類する。 ※ 思い出話に花を咲かせながら、子どもの頃の自分と現代の子どもたちとを重ね合わせ、コミュニケーションの取り方のポイントに気付かせたい。</p> <p>「笑顔・あいさつ・声かけ」で育てよう！地域の宝子</p> <p>① シートの(1)～(3)を順に紹介し、まずは、「笑顔・あいさつ」から始めること、よいことはほめ、悪いことは叱るなどの声かけが大切であることを伝える。 ※ 補助資料の「地域の子どもたちに対する接し方」を紹介してもよい。 ② 新聞記事(地域欄・投稿欄)や学校だより、公民館だより等を活用して、地域の声かけ運動の好例などを紹介する。(古仁屋「安全・安心きらめき隊」、いちき串木野市学生保護者会等)</p> <p>資料 親のしつけの仕方が原因でない場合があります。</p> <p>① 発達障害の子どもは、他人との関係作りやコミュニケーションが苦手な一方で、優れた能力を発揮している場合もあり、見た目のアンバランスさのため、誤解されやすいこと、周囲の理解と適切な支援で、能力を伸ばし社会の中で自立できることを説明する。 ② 政府広報オンライン暮らしのお役立ち情報「発達障害って、なんだろう？」(H26.12.25)などを参考に、発達障害の人に接する際の基本的なポイントを紹介する。 ※ 「シートの吹き出しの特徴＝発達障害」との誤解がないよう留意する。</p>	<p>全体の意見をまとめる黒板等</p> <p>補助資料</p> <p>補助資料 新聞記事等 (あれば)</p> <p>リーフレット 発達障害の理解のために(厚生労働省)</p>
まとめ 5分	<p>ワーク3</p> <p>① 今後の地域の子どもたちとの接し方について考えたことを各自に書かせる。 ② 可能であれば、数人に、書いたことを紹介してもらう。</p> <p><ルールとマナーを確認する></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 講座で知り得た個人情報とは外へ持ち出さないようにしましょう。 	

※ 時間は必要に応じて調整してください。

平成27年度 全国学力・学習状況調査結果から、本県の子どもたちは、全国平均に比べ、地域の行事によく参加していることが分かります。



平成27年度 全国学力・学習状況調査（文部科学省）

地域の子どもたちに対する接し方としては、やはり、声かけ、ほめる、叱るなどが多いようです。地域の子どもに関心を寄せ、「おはよう」「こんにちは」「おかえり」など、声かけから始めてみましょう。

地域の子どもたちに対する接し方

